

「今後中小企業が絶対必要となる事務生産性向上の理由」

私が、この23年間（金融機関から会計事務所勤務を経て経営コンサルタントとして独立）でおよそ500社近い中小企業に接してきて解ったことは、中小企業において存続の条件は3つということです。

それは、以下のとおりです。

- 1) 経営者が考えているサイズが会社のサイズになる。
- 2) 存続しつづける企業には、生き続けるためのDNAが存在する。
- 3) 全ての基本は5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）にある。

このうち1)及び2)に関しては、その会社が持つ本質的な部分（コア）で、外部から影響を与えにくい状況です。しかし3)に関しては、「導入目的」「導入方法」「研修教育」によって習慣付けしていくことが可能です。

また3)についてはルーチンワーク（日常的定型業務）に多大な影響を与えます。特にルーチンワークの中でも事務処理関係は中小企業においてはノンコア（非中心的業務）であり、生産性は非常に低い状況です。

今後、本質的な部分（コア）の競争力を高めるには、中小企業の唯一無比の「変化力」を磨くことです。

今までは、経営者の「勘と経験」だけで対応してきましたが、今後は「仮説と検証」の方法を取り入れ、「勘と経験」を科学的に分析し、許容できる成功確率であればリスクを負って、持てる資産を集中投下する必要があります。

荒れた大海原で、「漁船の計器」のような存在が「中小企業の事務処理」ということです。よって、今後はノンコア（非中心的業務）の見直しを、「小さい変化」のように思えますが、競争企業との「大きな差別化」に繋がることは間違いありません。

中小企業経営者の皆様において、自分自身で一度成功企業のノンコア分析をしてみてください。「変化力」と「事務生産性向上」の関係について確信が得られると思います。